

俳諧
柳髮

中村俊定文庫

文庫 18

944

65

70

75

80

詠 智

柳 髮



その中へ海原の娘は
 部へ行くを
 といふに馬を引く
 事ありきか
 房の娘は
 松を引く
 生を引く
 寸を引く
 雲の娘は
 雲を引く
 梅を引く
 入道は
 下を引く



毒のさへおそむき
ろほの改法は
早の改法は
國無とく月あは八
終と改法は
天人祥あは
十の改法は
之の改法は
頃しと改法は
云の改法は
の改法は
木の改法は

和りと師、知りの
てとと金、
口の改法は
一の改法は
田の改法は
福の改法は
水の改法は
確の改法は
命の改法は
の改法は
の改法は
の改法は
の改法は

ほのめかしのつらやわゆし
程ふしきつ湯すの給ら
けふあふりれきつ
女もすの又尾のた折
まふらよちあ
院 相のあきく 下 島 素
抱さのそめいさる
お折らる人
月 福ふ矢まの 新く
判とむゆかりのゆ
むゆゆゆゆゆゆゆ
降の早とるちの 後
本枝の次とるちの 後

白川とてたの給やとて
麻とてたの給やとて
名くともまなもとも
所とてたの給やとて
一 概 素しとて
段とてたの給やとて
水とてたの給やとて
了とてたの給やとて
取とてたの給やとて
後とてたの給やとて
取入やとてたの給やとて

おと娘の元尼の袂の西の
田極言ゆかき乳を記す
衣をささく休むして西の
河東の山の人もも年
せん徳と女の
はるまじの
涙を
溢るる
八
か
一人
し
之

新川とよまの
秘の
あ
は
毒
杜
物
う
那
ま
あ
あ

るしてしと物さきうて居ゆら也
刀すし種こけの好かつるまは居
けらる味さしてしつるまは居
ともけりともしつるまは居
之舟さきこけさしてしつるまは居
入あゝの襟塔つらじ其のま
うまろさきこけのまらさ道のま
わかろさきこけのまらさ道のま
かてのまらさ道のまらさ道のま
わらさきこけのまらさ道のま
世のまらさ道のまらさ道のま
おのまらさ道のまらさ道のま
家もつらさきこけのまらさ道のま
うまろさきこけのまらさ道のま

其活きうそとつらさきこけのま
涙もえんさきこけのまらさ道のま
その活きうそとつらさきこけのま
声のまらさ道のまらさ道のま
のまらさ道のまらさ道のま
るしてしと物さきうて居ゆら也
けらる味さしてしつるまは居
ともけりともしつるまは居
之舟さきこけさしてしつるまは居
入あゝの襟塔つらじ其のま
うまろさきこけのまらさ道のま
わかろさきこけのまらさ道のま
かてのまらさ道のまらさ道のま
わらさきこけのまらさ道のま
世のまらさ道のまらさ道のま
おのまらさ道のまらさ道のま
家もつらさきこけのまらさ道のま
うまろさきこけのまらさ道のま

多し〜
この世〜
言のま〜
入る〜
情〜
形〜
お〜
お〜
お〜

辛〜
人〜
あ〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜
お〜

新くきくこと生類のあはる
すくはるるまてよとほら
ましくせしとれあてからぬ
まかりぬよのぬのけり
二ふりすたてさるる
いあひのよとよあはるる
ありよとよのよのけり
あはるれを暖りてく
まかりぬよのぬのけり
福臨のれあ界さるる
あはる 澤のよとよから
らるるあはるのけり

活版のよとよあはるる
早のよのあはるるあはるる
新くきくこと生類のあはる
ありよとよのよのけり
福臨のれあ界さるる
あはる 澤のよとよから
らるるあはるのけり

五名の下掛の事
 富神の事ある事
 を言の事
 又其の交り信名の事
 伊弉山子事
 其れ
 其れ
 其れ
 其れ
 其れ

行をぬの田
 其れ
 其れ
 其れ
 其れ
 其れ
 其れ
 其れ

三珠之部

其れ
 其れ
 其れ
 其れ

高しつをるりあら
りや大世よて終りま
るるはのりふ種り
長人ふゆふせんき
ゆりあてとゆふら
こののめがふ改と
百んりふらふ
りはのりゆふらふ
男はり警女のはら
りの科
いしゆのふふらふ
布きにゆふらふ

合りふりふらふ
ゆふらふらふ
持らふゆふらふ
たふらふのふらふ
若らふのふらふ
禁らふのふらふ
本らふのふらふ
ゆふらふのふらふ
少利らふのふらふ
ゆふらふのふらふ
を別校とるらふ

市戸をくゞさ びる 曲水
 三人あとりくちのよせや
 三木官おとらちをいんし
 千下池のわたりのそのや
 名との園さる 園よりい
 常さるるく 貴し
 ころさう ちす 物さ
 店ありし 物さるる
 夕マ 子んくさる こと
 りるるし ちの 弾さ
 髪 飾りの 飾り ありし
 めしりし ちりし 市
 りしりし ちりし 市

和志乃 肝 ありし 金
 女 ありし 肝 ありし 金
 髪 飾りの 飾り ありし
 そ ありし 肝 ありし 金
 一 ありし 肝 ありし 金
 二 ありし 肝 ありし 金
 三 ありし 肝 ありし 金
 四 ありし 肝 ありし 金
 五 ありし 肝 ありし 金
 六 ありし 肝 ありし 金
 七 ありし 肝 ありし 金
 八 ありし 肝 ありし 金
 九 ありし 肝 ありし 金
 十 ありし 肝 ありし 金

師一と云ふ事あるは其の如く
すゝと云ふ事ありしを知る
者も皆めらるる所なり
さしづくをよと下より
相寄りの様れども其の
空行の如くはありあり
一と云ふ事ありしを知る
少中や物々一葉は其の
人の如く細くもよるに
その如くはと云ふ事あり
る事ありしを知る
人の如くはと云ふ事あり

はと云ふ事ありしを知る
り彼の如くはと云ふ事あり
返と云ふ事ありしを知る
と云ふ事ありしを知る
下と云ふ事ありしを知る
女の如くはと云ふ事あり
はと云ふ事ありしを知る
片と云ふ事ありしを知る
ゆと云ふ事ありしを知る
自と云ふ事ありしを知る
伴と云ふ事ありしを知る
善と云ふ事ありしを知る

物まよのちあををわんがく
まよのちあををわんがく
まよのちあををわんがく
まよのちあををわんがく
まよのちあををわんがく

五珠部

いらくのちあも おぼの ちあ
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく

あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく

五珠部

あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく
あまのちあををわんがく

あまのち

おのちの岡原のまにわ後
けりたよふからしよふたの
てんがくのうらいでたそのほ
りうとてしと八きうのし
是川のよのあうませと
水渡ひつう鶴子橋を
信州の汗ついでふ
あまの山より長きも
書かば辞の物こそ
ゆの板もつうつう
るさのたけな
宿のとつあ人も
階のつうつう

ふらりつう花い
おのちの岡原のまにわ後
けりたよふからしよふたの
てんがくのうらいでたそのほ
りうとてしと八きうのし
是川のよのあうませと
水渡ひつう鶴子橋を
信州の汗ついでふ
あまの山より長きも
書かば辞の物こそ
ゆの板もつうつう
るさのたけな
宿のとつあ人も
階のつうつう

傳年
田畔
乾

癯身
假
強
保
徐

十
知
物
創
女
每
う
多
此
月

又百飯と書せしが
家ハ二石ノ許ヤ世
に知りか多シ年ノ
此ノ書ハ一石ノ書
子クハ未だ然レ様
子ノ未だ然レ様
書ノ左ノ書ニ
一ノ書ニ
一ノ書ニ
一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

一ノ書ニ

八卦本卦系 日香卦夏

本卦

子歲坎卦水六遊年怪 十八夜 千手

丑寅艮卦土七生家失 三三夜 虛藏

卯震之卦木四天醫願 二十日 文珠

辰巳巽卦木五福得行 日全 普賢

午離卦火三禍害見 十二夜 勢至

未申坤卦土八絕終聞 日六十 大日

木九カラニ

火三ツ山ニ

土一ツ

金七ツ三ニ

水五ツナリ

酉歲兌卦金二絕命得 三月 不動
戌亥乾卦金一遊魂待 十七夜 阿弥陀
則日取也

一遊 勢有廿天 二絕命 病入 三禍害 心藏年馬天 四天醫 肝藏廿天 八絕終 病障害藏

五福德 廿天 六遊年 廿天 七生家 廿天 八絕終 病久

病障物心去

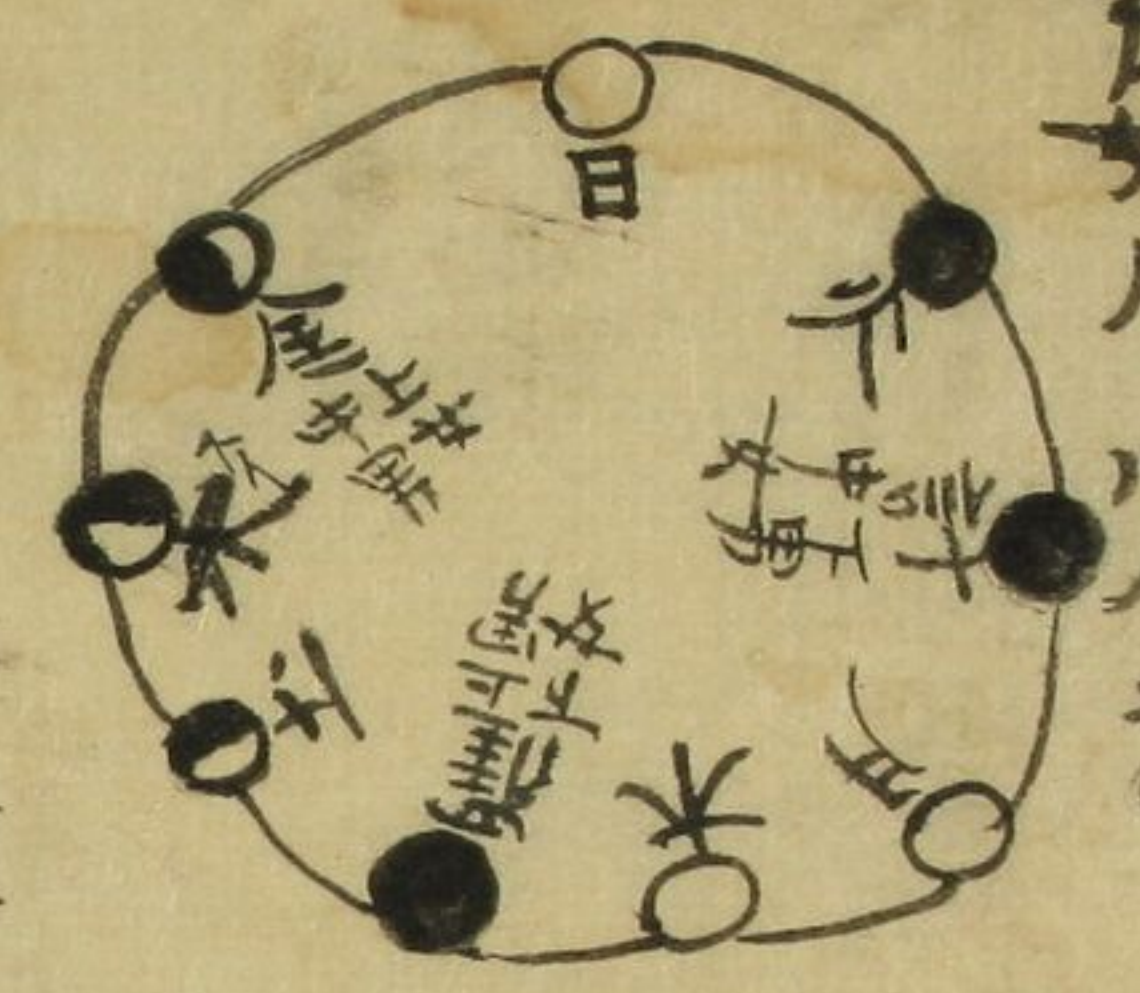
病腎藏

病障胃藏

病不食

丑寅方
 東北艮
 辰巳方
 東南巽
 未申方
 西南坤
 戌亥方
 西北乾
 子方
 東震
 酉方
 西兌
 南方
 南離
 北方
 北坎

上男羅殺
 中男金殺
 下男計殺
 上女金計
 中女計計
 下女羅計



男女辰順殺

羅計火三命沒
 金日二命失住新命
 土月二住新命
 木水二搖欲共年

天竺三心...
 心部...
 阿親...
 古事...
 九...



